

令和7年度 評価項目の達成及び取組状況

神西幼稚園

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況 達成及び取組状況をふまえ、成果と課題等を明らかにし、自己評価する。 その際、必要に応じ、保護者アンケートの結果も含める。	評価 評価基準により段階評価を行う。		
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	年度当初、教育目標を全職員で共通理解した後、学級経営案を作成している。学期末に反省改善を行っている。毎月、保育ミーティングを実施し、ねらいや内容を全職員で検討、共有することに努めた。教職員のアンケート結果は昨年度と同様の評価だが、保護者アンケートは「そう思う」の割合が多くなっている。	4	4	・今後も保育ミーティングを通して多面的にねらいや内容を検討していく。また、園児の様子や特性等について職員間で共通理解を図り、よりよい発達につなげていく。 ・園児の実態や園・地域の強みをいかした特色ある教育を更に進めることにより、自尊心を高めたり、自信を深めたりすると同時に、地域への愛着をより深めていきたい。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	毎月の保育ミーティングや日々の情報共有において、職員全体で多角的に園児の様子や発達の理解に努めている。小規模園の特色を生かして園児一人一人の発達や性格、特性に応じた保育を心掛けている。必要に応じて他の専門機関と情報共有をし、保育に取り入れている。その結果、保護者アンケートの評価が高くなっている。	4	4	・今後も、日々の情報共有や保育ミーティングを通して園児一人一人の個性や発達の理解を深め、個に応じた保育ができるよう、職員間の連携を図る。 ・日頃から保護者と幼児についての情報共有をし、保育や幼児理解に生かしていく。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	・配慮を要する園児について、担任と補助教諭だけでなく全教職員で共通理解を図っている。特別支援教育コーディネーターを窓口として、関係機関との連携を図ったり、担任が療育見学を行ったりすることができた。 ・特に支援を要する園児の小学校への接続については、特別支援教育コーディネーターを中心に取り組み、入学先の小学校との連携を深めることができた。	4	4	・特別な配慮を必要とする園児だけでなく、全ての園児の困難さや課題に配慮し、個に応じた保育教育を心掛ける。そのために、園児についての情報を全職員で共有し、支援にあたる。 ・特別な支援を要する園児については、今後も関係機関や小学校との連携を密にしていきたい。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	・褒めたり、認めたりしながら、園児が自尊感情や相手へのいたわりの気持ちをもてるような学級経営に努めている。 ・教職員アンケートは、昨年度と比べて若干ではあるが「そう思う」が減少している。園内研修や参考資料の提示等の職員研修をもう少し実施していく必要があった。保護者研修会ではメディアについての研修会を行うことができた。	3	3	・教職員研修、PTA研修を計画的に実施することで、職員と保護者の人権意識のいっそうの向上を図りたい。 ・今後も職員同士、職員と園児の関わりの中で、相手を尊重する心で接し、園児の手本となるよう心がける。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	・行事のねらいや内容、流れなどを一つ一つ検討し、園児の実態や興味・関心に即したものになるよう努力をしている。 ・年間行事を立案するにあたって、前年度から小学校やコミュニティセンターと連携を密にし、日にちが重ならないように日程を組んでいきたい。	4	4	・時節や園児の育ちに応じた行事を計画する。特に、 ①行事が重ならないように他団体と行事の調整をする。 ②園行事は事前に余裕をもって計画する。 ③既存の行事と新しく取り入れる行事は優先順位を決めて園児の過重な負担にならないようにする。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	・出雲サンサン保育園と計画的に交流をすることができた。クッキー作りやミニ運動会交流など活動内容も工夫し、子ども同士の交流を深めたりするよい機会となった。また、小学校とも連携をとりながら、プール遊び、校庭での虫捕り、たこあげ、遊具遊び等で交流を深めることができた。	3	4	・ねらいをもった交流活動となるように、保幼小連携担当同士で連絡を取り合いながら活動内容を工夫していきたい。 ・大集団の中で活動を体験させるために、出雲サンサン保育園とはさらに積極的に交流をしていきたい。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	・礼儀作法の会、ジジミ採りなど地域の人材、環境を活かした取組みや笹巻作りや子育てサロン交流などの行事へ積極的に参加し、園児の交流を深めることができた。 ・保護者とのコミュニケーションを大切に、子どもの様子をしっかりと伝えるように努めた。また、保育公開日に引き渡し訓練を行うなど、行事を同じ日に実施することによりPTA活動にも参加しやすくなった。	4	4	・地域人材や団体との連携した活動は、今後も積極的に実施していきたい。 ・保護者が子どもに関する相談を気軽にできる雰囲気づくりに努める。また、保護者と連携した園行事やPTA活動については、保護者の過重負担とならないよう配慮しながら継続していきたい。保護者から遠慮なく話しかけてもらえるように、今後も話しやすい幼稚園を目指して取り組んでいきたい。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	・できるだけ多くの職員が園外の研修会に参加するよう努めた。 ・出雲市幼稚園教育研究会が行う研究発表会や保育研修会に積極的に参加をして、研鑽を深めた。研修後は、参加した職員は復命により全職員に学んだ内容を広め、園全体としての資質向上に努めた。	3	3	・来年度も出雲市幼稚園教育研究会が行う研究会等に積極的に参加し、個々の保育の技量を高める。 ・来年度は近隣の保育園や小学校職員を幼稚園園内研修に招き、保育のねらいや課題について語り合ったり、共通理解したりしながら、資質向上を図ってきたい。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	・園行事においては、担当を中心に計画性を持って立案、準備、実施することにより互いに協力し合いながら進めることができた。仕事を一人で背負わず、チームで計画的に園務が行われている。また、職員の人数が少ない日でも他の職員で職務を割り振り、保育の質が保たれるよう全員で支え合う雰囲気が出てきている。	4	4	・行事の起案立案時に、作業の分担やスケジュールの確認を行い、計画的に余裕をもって準備を進められるように努める。 ・今後もみんなで助け合って仕事を進めていく雰囲気を大切にしていきたい。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	・交通安全教室や防犯教室、定期的な避難訓練など、子どもたちの命を大切にしたい取り組みを計画的に行い、園児や職員の危機意識と対応力が高まるよう努めた。訓練後の情報交換や反省もしている。 ・保護者アンケートの中で幼稚園の取り組みについて「わからない」との回答もあったので、今後広報活動に努めていく必要がある。	3	3	・今後も避難訓練や救命救急法の訓練等について、コミュニティセンターと連携しながら実施し、園児の安全確保に努める。また、避難経路など全職員で話し合いを行い、より安全が確保できるよう消防計画等の改善に努める。加えて、これらの訓練の実施について園だより等により保護者へ周知していく。 ・保護者への引き渡し訓練も継続して実施したい。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	・定期的な安全点検を実施し、必要に応じて修繕を行い、園児が安心・安全な園生活を送れるよう努めた。遊具の補修、撤去など担当課と連携を取り、実施した。 ・保護者アンケートの中に「わからない」と答えた方がおられるので、広報活動に努めていく必要を感じた。	3	3	・引き続き定期的な安全点検を実施するとともに、必要な修理については市教育委員会と連携して計画的な修繕を進め、園児が幼稚園で安心・安全に過ごすことができるように努める。 ・幼稚園だよりなどを使って、保護者にも安全点検を行っていることなどを伝えていく。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する